

誰もが自由に

岩出第二中学校 一年 和久 玲湖

「ここはエレベーターがあって良かったね。」母が口にした何気ないこの言葉。この一言は他の人から見てもただ普通のことだけれど、私は「普通」に感じるできませんでした。

六年生の秋、私は陸上大会の 50 メートルハードルの練習をしていました。そこで私はハードルに引っかかってしまい、足をくじいてしまいました。その時、ひどい痛みが走り、職員室に運ばれても痛みはひかず、逆に痛みのショックで吐き気がするほどでした。病院に行くと骨端線が損傷していると言われ、松葉杖で約一ヶ月過ごすことになりました。

前まではスロープやエレベーター、点字ブロックを見ていても、障害者や大けがをした人達にとって、それは十分に充実した設備だと思っていました。しかし、その人達の不自由さを甘く見ていたのです。それは私のかんちがいでした。実際に生活してみると、歩くのが難しかったり、行きたいところには障害者などの対応ができていなかったりしました。今まで何気なく使ってきたエレベーターやスロープが「あって本当に良かった。」と思うようになりました。私はまだ松葉杖で生活できたけれど、車いすなどではもっと不便だったと思います。そう考えると、今の設備だけでは足りないのだと実感しました。また、その設備や対応は欠けてはならないものだとも感じました。

でも、設備だけだと必ず足りない部分が出てきます。そのために自分達ができることはなんなのでしょうか。私は助け合い、募金活動が必要だと考えます。難しいと思うかもしれないけれど、手を貸してあげるだけでも不自由な人達にとっては大きな支えとなるのです。電車で席をゆずってあげたり、重い荷物を持っていたりしたら手助けしてあげたり、ちょっとした「気遣い」で助け合うこともできます。

たとえ設備や対応が欠けている所があったとしても、しっかり対応できる場所もないわけではありません。ですが、行きたいところに行けないのであれば、その人と周りの人の間に「差」が出てきます。この「差」を少しでも小さくするために助け合わなければならないのです。また、募金活動は少しのお金でもたくさんの方がすれば、大きな力になります。

だから家族や友達など身近な人達に少しでも興味をもってもらったりすることはとても大切です。募金活動について少し話し合うだけでも、「差」をちぢめる第一歩になるのです。

障害者や大けがをした人達の不自由さを浅く考えていませんか。今で十分だと思っていませんか。私はそんな考えが少しでも減ってくれればいいなと思います。

設備、対応できる家、飲食店、旅館などはすぐにできるものではありません。しかし、少しでも助け合い、募金活動などを続けることができればきっと「差」は無くなっていくと思います。

自由に動き、自由に過ごすこと。それは足や手が不自由な人と高齢者の人、普通の人、だれにでも欠けてはならない大切なことです。そして障害者などへの設備、対応が少しでも増えてほしいと思います。自分達ができることは設備では足りない部分を支えること、設備をつくるための募金活動をし、周りの人に興味をもってもらうことです。しかし、まだこの生活の設備を整える問題以外にも、障害者などの労働環境、いじめ、色々な問題があります。

でも、助け合い、募金活動をすることでよりよい社会の第一歩につながるのではないのでしょうか。私はそんな社会を創っていくために、気遣いや助け合い、支え合える人でありたいです。